

平成30年度における財政力指数は0.33

市民の皆さんに財政状況を伝えるため、毎月様々な角度から説明していますが、今月は「財政力指数」について説明します。

財政力指数って？

財政力指数とは、標準的な行政活動を行うためのお金を「自ら」まかなえる割合を示したもので、次の式で算出できます。

$$\text{単年度財政力指数} = \frac{\text{市税等の年間収入の見込額}}{\text{一定の行政サービスにかかる年間支出の見込額}}$$



この値が高いほど「財政基盤が強い」とみることができ、平成30年度における五所川原市の財政力指数は**0.33**で、全国都市791市のうち、**718位**となっています。ただし、この指数は原則として、人口規模が大きいほど高くなる傾向にあり、財政力指数のみで一概に自治体の状況を測ることはできないため、あくまで目安とお考えください。

結果として、この指数から市は行政活動に必要な資金を国、県の補助金など外部から多く調達している状況がうかがえます。こういった状況の中で、財政基盤が弱い自治体（財政力指数1未満の団体）のための措置として、国から普通交付税が交付されています。普通交付税については広報ごしょがわら10月号で説明していますので、そちらもご覧ください。

ここ10年での財政力指数の推移

当市における過去10年間の財政力指数の推移を見ると、最も高い比率が平成21年度の**0.34**で、最も低い比率が平成24年度の**0.31**となっており、ここ10年では0.3前半で推移しています。

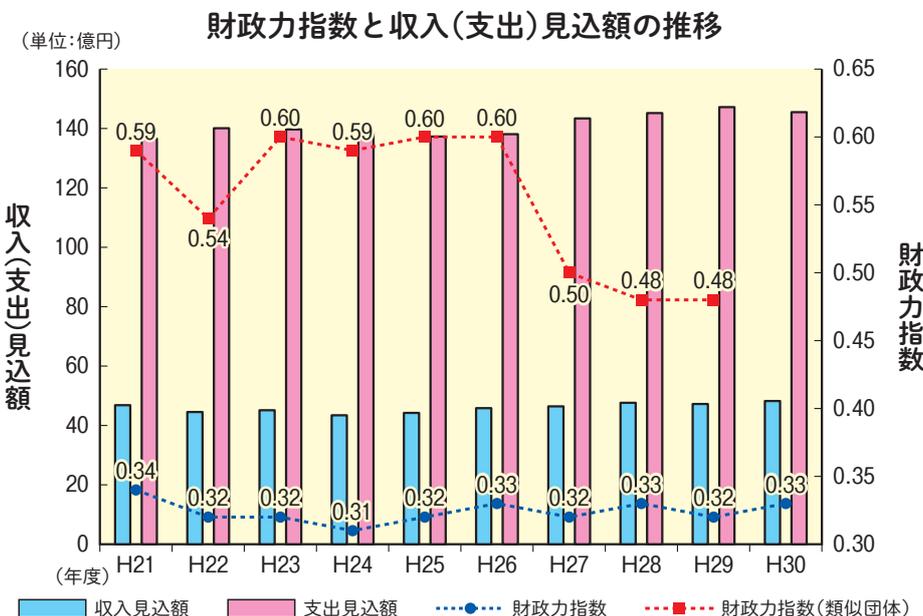
平成30年度の**0.33**は県内10市では3番目に低い値で、人口が同規模の十和田市、むつ市と比較すると、最も低い数値となっています（上記のとおり、財政力指数は人口規模に比例して高くなる傾向があるため、十和田市、むつ市と比較しています）。

類似団体との比較（平成29年度末時点）

平成29年度の財政力指数を全国の類似団体（*）と比較すると、五所川原市が**0.32**であるのに対し、類似団体では**0.48**と、**0.16**の差があり、当市の財政力指数は類似団体に比べても、低いことが分かります。

これは類似団体と比べて、当市独自の収入の見込額が低いことが原因の一つとして考えられます。

*類似団体：人口と産業構造の2要素の組み合わせにより、市は16の類型に分類されますが、そのうち同類型に分類される市を指します。



今後の動向

先ほど述べたように財政力指数だけでは、その自治体の財政力を測ることはできないものの、同規模団体と比較しても、市税収入は厳しい社会経済状況の影響で伸び悩んでおり、財政基盤が弱くなっています。

このような状態を改善するために、当市が抱える課題に対して、様々な政策を実施していくことで、五所川原市の魅力を高め、人口および税収増加を目指していきます。